

第 97 回全国高校サッカー選手権大会に出場され、1 月 2 日に初戦を迎えられる県立草津東高校サッカー部より、牛場哲郎監督、さらにキャプテンでありゴールキーパーの加藤直選手（背番号 1）、副キャプテンでありミッドフィルダーの山本佳輝選手（背番号 10）に青少年広報レンジャーの高見柚月さんが取材を行い、大会に向けての意気込み等をお話しいただきました。



<加藤選手（写真左）、山本選手（写真右）>

○昨年に続き、初戦（1 月 2 日）は青森山田高校との一戦となりました。対戦が決定してお気持ちを聞かせてください。

**加藤選手**：自分はキャプテンとして抽選会場にいましたが、出場校の中でも一番目につくのが青森山田だなと感じていたところ、その（対戦相手となる）くじを引くことになりました。昨年も対戦したということもあり、運命的なものを感じましたし、同時に「リベンジしたい」と気持ちが熱くなりました。

○くじを引く順番は出場校中、草津東が最後でした。抽選前から対戦したいという気持ちがありましたか？

**加藤選手**：残り 3 校ほどになった時、残っていたのが青森山田を含めた強豪校ばかりであり、どこに対戦しても苦しい相手だとは思いましたが、「どうせなら青森山田と」という気持ちはありました。

○山本選手はいつ抽選結果をご存じになりましたか？（抽選会に参加されたのはチームから加藤キャプテンと牛場監督のお二人）

**山本選手**：抽選会当日に速報を見ていて、「またか」という気持ちになりました。（笑）昨年対戦した時も自分は出場していたのですが、納得できるプレーができず、全く通用しなかったという記憶しかありません。今回も初戦から対戦できることとなり、チームとしても個人としてもリベンジできるチャンスだと感じています。

○勝つためのポイントについて、お二人が考えていらっしゃる部分を聞かせてください。

**加藤選手**：相手はかなり攻撃力のあるチームですので、まずは自分たちがいい守備をするというのが勝つための前提条件になってくるとは思います。その中でも、自分達は去年よりも攻撃的なチームであり、ボールポゼッション（自分たちでボールを保持すること）もできると思うので、ゴールに迫ることができるシーンも増えるのではないかとと思います。

**山本選手**：去年の対戦時は、青森山田の選手がみんな一回りは大きく見え、マッチアップした相手選手にも全くついていけず、全国トップレベルの力を実感しました。守備に回る時間も多と思うのですが、組織的な守備がしっかりできれば簡単には点をとられないかなとは思いますが。直（加藤選手）も言いましたように、今年のチームは個人でボールをキープできる選手が多く、相手ゴールにも迫ることができる機会があると思うので、チャンスを逃さず、しっかりとゴールできるかがポイントになるかと思っています。

○既にお話しいただいている部分もありますが、今年のチームの特徴、去年のチームとの違いを教えてください。

**加藤選手**：去年はどちらかという守備的なチームだったというのが自分からみての感想です。今年も予選から失点も少なく、いい守備ができていいる一方で、去年を超える攻撃力は確実にあると思います。相手ゴール前でのアイデアを持っていたり、ボールを動かす能力が高い選手も多いので、攻撃力が去年との違いだと思います。

**山本選手**：個人的には、今年は非常にバランスのとれたチームだと思います。現在のチームがスタートした当初は、去年のチームと比べて守備力で劣ると言われていたなかで、インターハイ、選手権の県予選でも失点をほぼゼロに抑えて勝ち上がることができました。この結果は自分たちが自信を持っているところですし、攻撃面でも、個人の能力に秀でた、ボールをキープすることができる選手が多いので、どんどんゴールを狙っていけるというのが今年の強みだと思っています。



○これまで重点的に取り組んでこられた練習などがありますか。

**加藤選手**：個人としては、毎日の朝練習で自分の武器であるキックを磨いてきました。

**山本選手**：自分は、夏のインターハイ前からフリーキックの練習をしていて、予選の準々決勝でもゴールすることができました。その他にもトラップであったりとか、パスの質を挙げたりといった基礎の部分も気にして練習してきました。

○県大会では、苦しい場面もあった中、見事に優勝されました。チームに勢いも出てきているかと思いますが、現在のチームの状態やモチベーションについて、どのように考えていらっしゃいますか。

**加藤選手**：僕たち3年生はこれが高校最後の大会となりますので、消極的なプレーに回り、負けてしまうよりは積極的にやろうという共通認識は皆でできていると思います。

**山本選手**：初戦から、今までやってきたことを全て出しきらないと勝てないようなチームが相手ですし、そういう強豪相手と対戦できるということは、自分たちがどれだけ全国で通用するのかを試すチャンスでもありますので、これまでやってきたことをそのままぶつけたいと思います。

○先程、加藤選手は御自身の持ち味としてキックをあげていただきましたが、山本選手が「ここを見てほしい」というプレーはありますか。

**山本選手**：パスや、ボールを受ける前のポジショニング（位置）を見ていただければと思います。

○県民の皆さんに向けて、最後に一言メッセージをお願いします！

**加藤選手**：今まで先輩が築いた最高成績が準優勝（第79回大会）ということもあり、それを塗り替えるには優勝するしかありません。目指すからには一番上（優勝）を目指し、歴史を塗り替えたいと思います。

**山本選手**：初戦から厳しい相手となりますが、一つでも上に行くにはそういう相手を倒していかないとはいけません。そのためにもチーム全員の力が必要であり、総力戦になってくると思いますので、皆さん応援をよろしくお願いします。

## <牛場監督>



○まずは、2年連続の全国選手権出場おめでとうございます。

**監督：**ありがとうございます。

○牛場監督としては、今回が初めての全国選手権となりますが、現在のお気持ちを聞かせていただけますか。

**監督：**就任一年目で全国大会に行けるとするのは、「選手個人の力をお借りして」というか、皆が本当によくやってくれた結果ですので、普段やってきたことが間違っていなかったのかなとうれしく思っています。

○昨年に続き、初戦（1月2日）は青森山田との一戦となりました。対戦が決定してのお気持ちであったり、相手チームの印象を聞かせてください。

**監督：**全国のトップレベルのチームということは間違いないので、3年生が高校最後となる大会で対戦できるのはありがたいことですし、前回大会でも対戦した相手と今大会も初戦からということで、一年間の成長を測るためにも絶好の相手と考えています。

○先程、選手のお二人にお話を聞かせていただいた中で、「リベンジ」というワードを口にされていましたが、勝つためのポイントについて監督が考えていらっしゃる部分があればお聞かせいただけますか。

**監督：**相手は非常に強いチームで能力の高い選手も多く、うちの守備の時間が長くなるのは間違いないと思います。その辺を考慮したうえで、どう攻めるのか見出していくためのトレーニングをしています。特に相手の攻撃を抑えて、どこでボールを奪うのかで攻撃のチャンスも変わってくると思いますので、それを糸口に、堅く守って速く攻めるというところを狙って戦いたいと考えています。



○牛場監督が就任されてから、現在のチームとして、重点的に取り組んでこられたような練習はありますか。

**監督：**「全国で通用するプレーを普段からやろう」ということは、前回大会の敗戦以降、選手に求めてきました。そのためには、技術的なところだけではなく、フィジカルの（肉体的）なところも含めて必要になってきますが、「ああいう舞台で勝ちたい」という思いが選手達にもありますので、お互いに相談し、引き出しながら準備をしてきました。

○県大会では、苦しい局面もあったなか、見事に優勝されました。チームに勢いも出てきているかと思いますが、現在のチームの状態や選手のモチベーションについて、どのようにお考えですか。

**監督：**県大会では、余裕で勝てたという試合は一つもなく、どの試合も接戦をものにできたという部分で選手たちに自信がついていったのかなと思います。そういういいプレー、自信になってきた部分を全国でぶつけることができるということが、現在の選手のモチベーションに繋がっていると思います。

○草津東高校には高い技術を持った選手がたくさんいらっしゃると思いますが、選手選抜にあたってのポイント等はあるですか。

**監督：**「上手い」だけでは勝てないので、気持ちの強い選手が求められると思います。単純に技術力の高さだけでなく、サッカーに必要な要素を総合的に評価し、局面で力が発揮できるような選手を選ぶようにはしています。



○選手のモチベーション維持の仕方、監督としてチームマネジメントにあたってのポイントはありますか。

**監督：**県内でも高いレベルの選手が来てくれているのは間違いないと思うのですが、その中での「競争」という部分は常々言っています。お互い高めあうことは大切ですし、競争すること、自分にできないことを感じながら選手同士がお互いに向き合ってやっていくことが大事だと考えています。ただ、できない部分と言うだけではなく、良い部分は褒めることで、起きた事象に対してこちらでどんどんジャッジをし、声をかけるようにはしています。自分自身もどちらかという、「気持ちでプレーする」というような要素の強い選手でしたので、諦めないとか、そういった気持ちの面については強くアプローチをしてチーム作りをしようとしています。

○準優勝された第79回大会のような躍進を期待されている方も多いと思います。県民の皆さんに向けて、最後に一言メッセージをお願いします！

**監督：**第79回大会の準優勝がうちの最高順位ですが、84回大会で野洲高校が優勝されました。滋賀県の代表チームが日本一となる、という部分を目標にがんばりたいと思います。サッカー少年をはじめ、この大会を観てくださった方々に「97回大会 草津東ががんばったな」というような思いを届けることができるよう、頑張りたいと思います。

